

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 4 月 7 日 (2005.4.7)

【公表番号】特表 2002-514053(P2002-514053A)

【公表日】平成 14 年 5 月 14 日 (2002.5.14)

【出願番号】特願平 10-514774

【国際特許分類第 7 版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 K 38/00

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/06

C 0 7 K 7/06

C 0 7 K 7/08

C 0 7 K 14/00

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/06

C 0 7 K 7/06

C 0 7 K 7/08

C 0 7 K 14/00

A 6 1 K 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 8 月 10 日 (2004.8.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書



平成16年 8月10日

特許庁長官殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第514774号

2. 補正をする者

氏名(名称) ブリストル・マイヤーズ・スクイブ・カンパニー

3. 代理人

住所

〒540-0001

大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル

青山特許事務所

電話 06-6949-1261

FAX 06-6949-0361

氏名

弁理士 (6214) 青山 葆



4. 補正対象書類名 請求の範囲

5. 補正対象項目名 請求の範囲

6. 補正の内容
別紙のとおり。

(別紙)

請 求 の 範 囲

1. (1) 細胞質膜を通して細胞にまでポリペプチドを運ぶことのできるシグナル配列ペプチド；および

(2) 少なくとも2個の核局在化配列 (NLS)

を含む、単離ポリペプチドであって、

該ポリペプチドは細胞系タンパクの核輸送を阻害することができる、該単離ポリペプチド。

2. シグナル配列が1番目と2番目のNLSによって、アミノおよびカルボキシー末端で相互変換可能にフランクする、請求項1記載のポリペプチド。

3. シグナル配列ペプチドがアンテナペディア ホメオドメインシグナル配列ペプチド、繊維芽細胞成長因子シグナル配列ペプチド、ヒト免疫不全ウイルス (HIV) Tatシグナル配列ペプチド、またはHsc70シグナル配列ペプチドである、請求項1または2のいずれか記載のポリペプチド。

4. シグナル配列ペプチドがアンテナペディア ホメオドメインシグナル配列ペプチドである、請求項3記載のポリペプチド。

5. シグナル配列ペプチドがアミノ酸配列RQIKIWFQNRRMKWKK (SEQ ID NO: 7) を含む、請求項4記載のポリペプチド。

6. シグナル配列ポリペプチドが繊維芽細胞成長因子シグナル配列ペプチドである、請求項3記載のポリペプチド。

7. シグナル配列ペプチドがアミノ酸配列AAVALLPAVLLALLA (SEQ ID NO:8) を含む、請求項6記載のポリペプチド。

8. シグナル配列ペプチドがHIV Tatシグナル配列ペプチドである、請求項3記載のポリペプチド。

9. シグナル配列ペプチドがアミノ酸配列CFITKALGISYGRKKRRQRRRPPQGSQTH (SEQ ID NO: 9) を含む、請求項8記載のポリペプチド。

10. 1番目及び2番目のNLSが同一または相違し得て、そして

PKKKRKV (SEQ ID NO: 10)、KKKRKVC (SEQ ID NO: 11)、GKKRSKA (SEQ ID NO: 12)、KRPRP (SEQ ID NO: 13)、GNKAKRQRST (SEQ ID NO: 14)、GGAAKRVKLD (SEQ ID NO: 15)、SALIKKKKKMAP (SEQ ID NO: 16)、RKLKKLGN (SEQ ID NO: 17)、PQPKKKP (SEQ ID NO: 18)、ASKSRKRKL (SEQ ID NO: 19)、KKKYK (SEQ ID NO: 20)、KKKYKC (SEQ ID NO: 21)、KSKKK (SEQ ID NO: 22)、KRVKLC (SEQ ID NO: 23) および AKRVKL (SEQ ID NO: 6)

からなる群から選ばれるアミノ酸配列を含むペプチドである、請求項1または2のいずれか記載のポリペプチド。

11. 1番目及び2番目のNLSが同一または相違し得て、そして

PKKKRKV (SEQ ID NO: 10)、KKKRKVC (SEQ ID NO: 11)、GKKRSKA (SEQ ID NO: 12)、KRPRP (SEQ ID NO: 13)、GNKAKRQRST (SEQ ID NO: 14)、GGAAKRVKLD (SEQ ID NO: 15)、SALIKKKKKMAP (SEQ ID NO: 16)、RKLKKLGN (SEQ ID NO: 17)、PQPKKKP (SEQ ID NO: 18)、ASKSRKRKL (SEQ ID NO: 19)、KKKYK (SEQ ID NO: 20)、KKKYKC (SEQ ID NO: 21)、KSKKK (SEQ ID NO: 22)、KRVKLC (SEQ ID NO: 23) および AKRVKL (SEQ ID NO: 6)

からなる群から選ばれるアミノ酸配列を含むペプチドである、請求項7記載のポリペプチド。

12. 1番目及び2番目のNLSがアミノ酸配列PKKKRKV (SEQ ID NO: 10)を含む、請求項11記載のポリペプチド。

13. 1番目及び2番目のNLSが、アミノ酸配列：それぞれPKKKRKV (SEQ ID NO: 10) およびKKKRKVC (SEQ ID NO: 11)、それぞれKKKYK (SEQ ID NO: 20) およびKKKYKC (SEQ ID NO: 21)、またはそれぞれAKRVKL (SEQ ID NO: 6) およびKRVKLC (SEQ ID NO: 23)を含む、請求項11記載のポリペプチド。

14. アミノ酸配列PKKKRKVA AVALLP AVL LALLAPKKKR

KV (SEQ ID NO: 24) を含む、請求項 12 記載のポリペプチド。

15. アミノ酸配列が PKKKRKVAVALLPVLLALLAPKKKRKVC (SEQ ID NO: 1) を含む、請求項 13 記載のポリペプチド。

16. 細胞系タンパクが転写因子である、請求項 1～15 のいずれか 1 つに記載のポリペプチド。

17. 転写因子が NF- κ B である、請求項 16 記載のポリペプチド。

18. 核局在化配列 (NLS) を含む、細胞系タンパクの核輸送を阻害するための請求項 1～17 のいずれか 1 つに記載のポリペプチドであって、ここで、

該ポリペプチドは外因性ポリペプチドであり、そして、

(a) 該ポリペプチドを供し；および、

(b) 該ポリペプチドを無傷細胞に導入するのに有効な期間、該ポリペプチドと該細胞とを接触させる、
ことを含む、該ポリペプチド。

19. 被験者における免疫応答を抑制するための医薬組成物であって、免疫抑制に有効な量の請求項 1～17 のいずれか 1 つに記載のポリペプチドおよび医薬的に許容し得るビヒクル、担体またはアジュバントを含有する、該医薬組成物。

20. 被験者におけるウイルス感染を治療または予防するための医薬組成物であって、抗ウイルスに有効な量の請求項 1～17 のいずれか 1 つに記載のポリペプチドおよび医薬的に許容し得るビヒクル、担体またはアジュバントを含有する、該医薬組成物。

21. 転写因子の核輸送の阻害物質としての医薬組成物であって、請求項 1～17 のいずれか 1 つに記載のポリペプチドおよび医薬的に許容し得るビヒクル、担体またはアジュバントを含有する、該医薬組成物。

22. 被験者における免疫応答を抑制するのに有用な組成物の製造における、請求項 1～21 のいずれか 1 つに記載のポリペプチドの使用法。

23. 被験者におけるウイルス感染を治療または予防するのに有用な組成物の製造における、請求項 1～21 のいずれか 1 つに記載のポリペプチドの使用法。

24. 細胞系遺伝子の発現を転写的にモジュレートするのに有効な組成物の製造における、請求項 1～21 のいずれか 1 つに記載のポリペプチドの使用法。